

実施体制及び国内外のネットワーク

提案主体名	特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター(AABC)
提案プロジェクト名	全世代参加型「幸齢楽園都市ふくおか」の実現
① 実施体制(構成主体と役割分担)	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>・趣旨に賛同する自治体とAABCが連携して実施。当面は福岡市を想定。 ・中核組織として「幸齢楽園都市ふくおか」コンソーシアムを組織。 構成:AABC、福岡市、福岡アジア都市研究所(福岡市のシンクタンク)、福岡商工会議所、九州経済調査協会、企業、他の市町村、国等 国外メンバーとして、アジア太平洋アクティブエイジング会議(略称ACAP:下記③参照)主要メンバーをオブザーバー参加とする。 事務局:AABC</p>	
② 実施体制(プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論)	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>・自治体は人事異動等により事業への関与度が変動・低下しやすいため、事務局をAABCに置き、事業推進の維持継続を図る。 ・事業推進の核となるプロジェクトマネージャーは5～10年間変更させないことが必要。 ・中核組織となる「幸齢楽園都市ふくおか」コンソーシアムには参画する自治体から実務担当者の長期派遣が必要。 ・事業の着実な推進のためには、自治体側は事業を市のマスタープランに位置づけ、推進組織を首長の直屬下に置くなど、全面的な参画する。</p>	
③ 国内外のネットワーク(国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論)	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>・国内:WHOヘルシー・シティの世界的なネットワークにつながる健康都市連合日本支部(名古屋市、神戸市、市川市等が参加)や、スマート・ウェルネスシティ(岐阜市、三条市、新潟市等の首長によるグループ)、と連携を図り、定期的な情報交換の場を設置する。 ・九州の知事会・財界によって設立された「九州地域戦略会議」において、実証結果を公表し政策提言を行うことで、九州内での広域的な交流、政策実行を実現していく。 ・九州の知事会・財界によって設立された「九州観光推進機構」と連携し、海外からのアクティブ・エイジング・ツーリズムの誘致を促進して、アジアへの普及を図る。 ・国外:AABCは、アジア太平洋地域のアクティブエイジング推進を目的とする行政・研究者・実務家のネットワークであるアジア太平洋アクティブ・エイジング会議(ACAP)事務局を担当しており、定期的に国際会議を開催しているが、主要メンバーをオブザーバー参加を認める。 ・WHOヘルシーシティ連合、WHOエイジ・フレンドリー・シティ・グローバルネットワークと連携を図る。 ・市民ラボの指導者相互の連携を深めるため、フェイスブックを活用した情報交流のネットワーク構築。 ・関係者へのニュースレターの定期的な発行。</p> <p>※その他に活用可能なネットワークについては、「参考資料:AABCの事業展開と関連する諸団体」も参考のこと</p>	
④ 国内外のネットワーク(国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論)	
<p>※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。</p> <p>・福岡市が取り組む国際都市間連携を活用した情報発信(福岡・釜山超広域経済圏、国際知識経済都市会議等) ・AABCが笹川平和財団の助成を受けて3年間行った、アジア型エイジング対応支援事業(アジア地域へ日本の高齢化事業を実際に展開する試み。平成22年度より福岡市と釜山市で健康づくり事業を共同実施中)を継続し、他の韓国諸都市、中国の上海市等との共同事業を実施する。 ・アジア太平洋アクティブエイジング会議(ACAP)の定期開催(H23NIはインドネシアで開催予定) ・日英ハンゲル中のホームページにより、常時情報を発信する。</p> <p>※その他に活用可能なネットワークについては、「参考資料:AABCの事業展開と関連する諸団体」も参考のこと</p>	

※別紙様式3は、可能な範囲内でご提案願います。